

## 滿鐵副總裁

に就任した

### 八田嘉明氏

○實力の赴くところに天下の途は開かれる。八田嘉明氏が今回滿鐵副總裁の任を受諾したのも、要するに平素の實力が之を成さしめたものである。

○八田氏は鐵道省に在つては精力絶倫なる勤勉家であり、研究家であつた。而して行ふ處は合理化の積極的促進であつた。

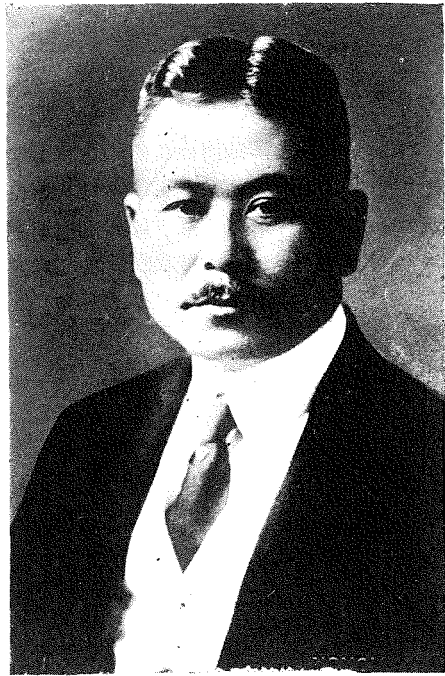
○技術家であつて時世を觀るの明と、大勢の赴く處を察知し、絶えず自分と云ふものを事務の中心に生かす、此點は八田氏が役人として最も傑出した點であつた。

○八田氏は公人として上下に信頼を博したのみならず、私人としても情に厚い人である。最近鐵道省を退いて民間各事業會社に職を得た人の中には八田氏の世話になつた者が甚だ多い。

○鐵道人としての八田氏は非常に大なる抱負を有する人である。決して一局部にコダワつてゐない。大局を進めんが爲に努めて新しい人に會ふ、而して人を知り、社會を知るに努める

○八田氏は今日上院に議席を有し、研究會の實務的有力家の一人となつてゐるが、傍ら鐵道其他一般工業や各種の團體に役員として關係し、而して其何れにも必ず其責任を完全に果しつゝある人である。一方には又新聞に對し雑誌に對し指導後援を惜まない。

○八田氏の平常の趣味は、大局の調査と研究である。之が爲には讀書し、又人と談じて時の移るを忘れる。而して一方には旅行して實



滿鐵副總裁八田嘉明氏

地を視察する。樺太に行き、北海道に行き、滿蒙朝鮮に行く。氏の鐵道知識は既に久しい以前から滿蒙を研究してゐたのである。

○今や滿鐵副總裁としての八田氏は、龍の雲に乗じたるが如く、世界交通の大局に立ち、平常の抱負實現の機會を得たのである。

○滿蒙新國家に對し、左右の支へ柱となつてゐる軍部と滿鐵とは、今後非常な責任がある。八田氏が副總裁としては、八億に増資する必要もあらう。廣汎な人事の異動もあらう。然し八田氏は『世の中には剃刀の様に切れる者も必要であり、又鋸の様な者も必要である』と述懐する程の苦勞人でもある。決して一黨一派の爲に不情理な事をする人ではない。

○八田氏の健康は今後の激務に堪へ得るであらうが、滿鐵の仕事は容易なりぬものである。吾等は邦家の爲に自愛自重を祈るものである。